

## 特集 集患活動における 入院決定率の重要性

藍野病院（大阪府）地域医療連携センター長である梅本 豊さんに、病院経営「稼働率UP」における入院決定率の重要性について、お伺いしました。

### 今回のこみゅりんく講師



梅本 豊 さん

地域医療連携センター長

毎週約70件の入院相談を、20人程のスタッフを束ねて効率的に運営。連携と院内調整のスペシャリスト。

### なぜ？入院決定率が重要なのか

入院相談からの決定率は、入院依頼をどれほど患者獲得にまで繋げられたかを表すとても重要な指標です。渉外活動によって入院依頼が増加しても、入院決定率が低ければ逆効果になりかねません。では、如何にして入院決定率をUPできるのか？ここで入院依頼結果の分析が有用になります。

- ①キャンセル件数とその理由
- ②受入れ不可件数とその理由
- ③医師別の入院決定率



### Q.月刊こみゅりんくとは？

(株)プレアデスセブンが主催する、病院経営に関するオンライン講座「こみゅりんく」の内容や、お役立ち情報をまとめた情報誌です。講座の詳細は裏面に記載しています。

### ①キャンセル件数とその理由

入院依頼件数のうち、キャンセルされた件数と割合と、他院に決定した理由を詳細に突き止め、自院での対応に問題なかったかを振り返ることが重要です。この重要な分析は、院内でも、連携担当のみが実施できるのです。

### ②受入れ不可件数とその理由

入院依頼のうち受入れ不可となった件数と割合とその原因は、病状とベットコントロールのどちらにあるのかを突き止め、渉外活動によって得た紹介患者を、当院の都合で断ることの問題をしっかりと院内で考えることが重要です。

### ③医師別の入院決定率

診療科ごと医師ごとの入院受入結果を分析し、受入れ率の低い診療科や医師にある問題点を突き止めることが重要です。

このように入院依頼結果を様々な切り口から分析すると、院内の問題点が顕在化し、それらを解決することで、入院決定率を上げることができます。

今月の



導入事例

## 町田胃腸病院（東京都）

経営企画室長 大原さん

### Q.導入の目的や効果は？

地域連携室における入院決定の迅速化と経営管理ツールのDX化を目的としました。導入後に先ず実感したのは、経営会議用の資料作成の時間と工数が大幅削減され、関係者の業務が楽になった点です。グラフで数字も見やすく意識共有もできています。更に、地域連携の活動が見える化されたことで稼働率UPに繋がっています。

### Q.一番活用している機能は？

当院では入院前のシュミレーション機能を活用します。使いこなせる迄までは、地域連携室向けのオンライン講座こみゅりんくに、毎回、室長と担当者が参加し、集患を実現するための実践的ノウハウを習得してきました。今後はこころんくを活用できる人員を増やししながら、全職員一丸となった病院経営を進めていきたいです。



#### 【病床機能】

- 急性期一般4：42床
- 地域包括ケア入院医療管理料1：8床

#### 【特徴】

消化器領域専門病院として、50年以上町田市の医療に貢献。内視鏡症例は年間10,000を施行。眼科では白内障手術を東京女子医大と連携。

地域連携推室から発信  
経営改善コミュニティ

こみゅりんく



人口減少、病床機能の変革…

これからの「地域包括ケア戦略」を明確にしてエリア内の急性期やクリニック、在宅、介護から愛される「地域包括ケアNo1病院」を目指しデータに基づく戦術を学びます。

現状、看護部主導でのベッドコントロールからチームでの活動へと、変化するきっかけとなりました。

参加者の声

他施設や他院から当院に対する要望を聞いたことで、改善策の検討を、部署内で話し合うことができました。

日程 第4期 2024年11月11日(月)～

回数 全7回（講座4回）

方法 オンライン

費用 無料

資料と申込は [こちら](#)



経営改善の実践的ノウハウを学ぶ“こみゅりんく”で次の一手を！